

北極餃子 Zhaokui Dumplings

餃子作り
一筋31年
王雪峰さん
「おな？」

都知事選出馬表明
蓮舂氏
次の一手は？
テレビでかっ!!

14:25

寝誰か...
寝てる...

TOILET
13:35
「このスパアリア、みんなも食べてみて」
わたしは...
定食に...
これ、口の中がさっぱりしていいねん

定食 (スペアリア) 少め
「おな？」

セルラードリンク
一杯目はサーピンス

おなさん、うーロン茶でいいですか？

地三魚羊
なす・ピーマン
「じゃがいもがいい仕事をしています」
「皮がモチモチでおいしい」

メニューにのっていない餃子湯
「おな？」

肉三鮮餃子
黒酢
猪肉香菇餃子
鮮蝦餃子

5月31日 FRIDAY 2024

13:01 お店に集合

次号のオリジナルで、このお店のことを絵と文でおねがい

BGMのみなさん

わたし →
「おな？」
「おな？」
「おな？」



進撃の「ガチ中華」
中国を超えた、激ワマ中華料理店の探訪記
近藤大介

KODANSHA

講談社



ISBN978-4-06-535638-8
C0098 ¥1500 (税別)

KODANSHA

近藤大介 こんどう だいすけ

1965年生まれ、埼玉県立浦和高校、東京大学卒、国際情報学修士。講談社入社後、北京大学に留学し、中国、朝鮮半島を中心とする東アジア取材をライフワークとする。講談社北京副社長を経て、講談社「現代ビジネス」編集次長、コラムニスト。「現代ビジネス」の連載コラム「北京のランダムウォーカー」は720回を超える。日本で最も読まれる中国関連コラムとして知られる。2008年より明治大学国際日本学部講師(東アジア国際関係論)も兼任。2019年に「ファーウェイと米中5G競争」(講談社・α新書)で国際アジア共同体会学会賞天心記念賞最優秀賞を受賞。「ふしぎな中国」(講談社現代新書)他関連図書は35冊以上。

(写真) 西村直也

- 進撃の「ガチ中華」 1
- 思い出のクリフオード 6
- 日々読書 6
- メモランダム・本のデザイン 7
- 昭和残照 8
- 続・ぼくの映画館は家から5分 8
- はれのちのちもり 10
- NS COLUMN 11
- 魚の環世界 12

付録
トキドキ漫画
MY KID'S DIARY



進撃の「ガチ中華」
中国を超えた、激ワマ中華料理店の探訪記
近藤大介

探訪記

近藤大介

講談社

打ち合わせは2月、講談社の青木肇さんと赤波江さんとzoomで和やかに済んだ。しかし、その時点で「ガチ」な扉絵を描ける自信はまったくなかった。ついでに言う「ガチ中華」に興味もなかった。そんなわたしの及び腰はすぐにバレて、日下さんからの電話が鳴り、絵の案をたくさんもらい(感謝しております)やっと筆(マーカーですが)が乗り出した。ゲラを読み進めるうちに料理の背景やエピソード、近藤大介さんの食欲をそそる語り口に魅せられ、いそいそと日比谷の「添好運」(本で紹介されているのは後楽園のラクアア店)へ行き、飲茶をたらふく食べた。そんな息抜きをしつつ扉絵を描き上げた翌日、予定外のカバーの絵の依頼も頂く。今度は「食彩雲南」へ蒸し蒸し鍋を食べに行き、もうもうの湯気を体験。楽しい!おいしい!この湯気を描くぞ!(カバー袖にちゃっかり自分も入れました)そして5月、完成した本を携えてBGXのみなさんと新大久保の「兆奎餃子」へ。皮もつちりの餃子に舌つづみを打ったのであります。好吃!

霜田あゆ美 イラストレーター

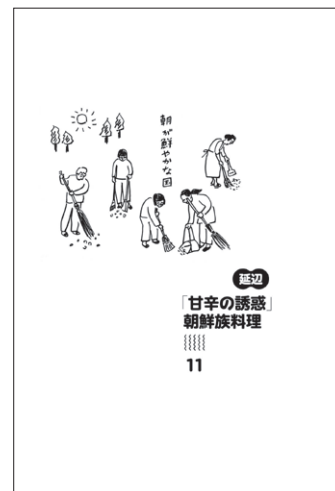
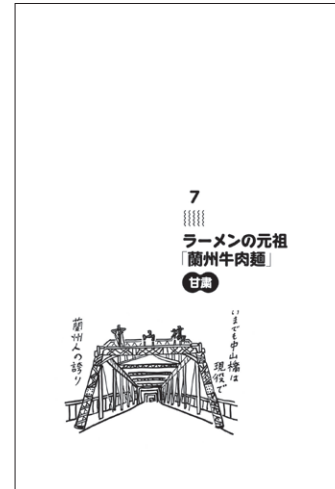
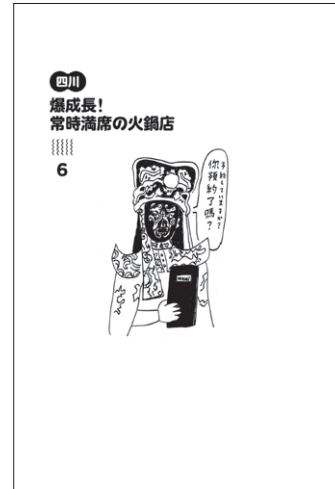
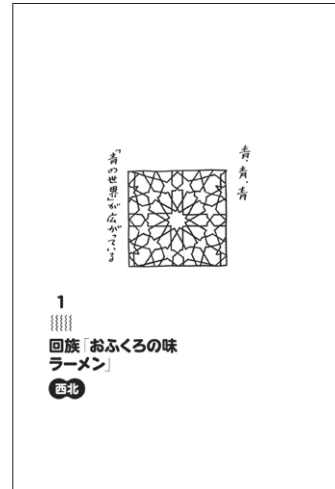


左 カバーと帯の表
 右 別丁扉
 下 本文

本文を組んでいる間も、カバーのデザインをしている間も、とにかく「お腹がすく本」でした。本文には、店内や料理の写真もたくさん載っています。章扉は、霜田さんに絵だけではなく文字も書いてもらいました。文字が入ることで、ユーモアと親しみやすさが出たと思います。タイトルの囲みの色は、ラフの段階では3パターンを作成。オレンジ、黄緑、水色。担当の青木さんが、水色を気に入ってくれて、即決。帯は黄色と赤の組み合わせにして、陽気でエネルギッシュな雰囲気。書店で、とても目立っていました。そして発売後、念願の「兆奎餃子」へ。おなかいっぱい水餃子をたのしみました。次は、ラーメンの元祖「蘭州牛肉麵」のお店に行きたいです。(赤波江)



110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536
 537
 538
 539
 540
 541
 542
 543
 544
 545
 546
 547
 548
 549
 550
 551
 552
 553
 554
 555
 556
 557
 558
 559
 560
 561
 562
 563
 564
 565
 566
 567
 568
 569
 570
 571
 572
 573
 574
 575
 576
 577
 578
 579
 580
 581
 582
 583
 584
 585
 586
 587
 588
 589
 590
 591
 592
 593
 594
 595
 596
 597
 598
 599
 600
 601
 602
 603
 604
 605
 606
 607
 608
 609
 610
 611
 612
 613
 614
 615
 616
 617
 618
 619
 620
 621
 622
 623
 624
 625
 626
 627
 628
 629
 630
 631
 632
 633
 634
 635
 636
 637
 638
 639
 640
 641
 642
 643
 644
 645
 646
 647
 648
 649
 650
 651
 652
 653
 654
 655
 656
 657
 658
 659
 660
 661
 662
 663
 664
 665
 666
 667
 668
 669
 670
 671
 672
 673
 674
 675
 676
 677
 678
 679
 680
 681
 682
 683
 684
 685
 686
 687
 688
 689
 690
 691
 692
 693
 694
 695
 696
 697
 698
 699
 700
 701
 702
 703
 704
 705
 706
 707
 708
 709
 710
 711
 712
 713
 714
 715
 716
 717
 718
 719
 720
 721
 722
 723
 724
 725
 726
 727
 728
 729
 730
 731
 732
 733
 734
 735
 736
 737
 738
 739
 740
 741
 742
 743
 744
 745
 746
 747
 748
 749
 750
 751
 752
 753
 754
 755
 756
 757
 758
 759
 760
 761
 762
 763
 764
 765
 766
 767
 768
 769
 770
 771
 772
 773
 774
 775
 776
 777
 778
 779
 780
 781
 782
 783
 784
 785
 786
 787
 788
 789
 790
 791
 792
 793
 794
 795
 796
 797
 798
 799
 800
 801
 802
 803
 804
 805
 806
 807
 808
 809
 810
 811
 812
 813
 814
 815
 816
 817
 818
 819
 820
 821
 822
 823
 824
 825
 826
 827
 828
 829
 830
 831
 832
 833
 834
 835
 836
 837
 838
 839
 840
 841
 842
 843
 844
 845
 846
 847
 848
 849
 850
 851
 852
 853
 854
 855
 856
 857
 858
 859
 860
 861
 862
 863
 864
 865
 866
 867
 868
 869
 870
 871
 872
 873
 874
 875
 876
 877
 878
 879
 880
 881
 882
 883
 884
 885
 886
 887
 888
 889
 890
 891
 892
 893
 894
 895
 896
 897
 898
 899
 900
 901
 902
 903
 904
 905
 906
 907
 908
 909
 910
 911
 912
 913
 914
 915
 916
 917
 918
 919
 920
 921
 922
 923
 924
 925
 926
 927
 928
 929
 930
 931
 932
 933
 934
 935
 936
 937
 938
 939
 940
 941
 942
 943
 944
 945
 946
 947
 948
 949
 950
 951
 952
 953
 954
 955
 956
 957
 958
 959
 960
 961
 962
 963
 964
 965
 966
 967
 968
 969
 970
 971
 972
 973
 974
 975
 976
 977
 978
 979
 980
 981
 982
 983
 984
 985
 986
 987
 988
 989
 990
 991
 992
 993
 994
 995
 996
 997
 998
 999
 1000



- 1 アリヤ清真美食〈池袋〉
- 2 逸品火鍋〈池袋〉閉店
- 3 兆奎餃子〈大久保〉
- 4 新天地〈池袋〉
- 5 湘遇 TOKYO〈高田馬場〉
- 6 海底撈池袋店〈池袋〉
- 7 薩斐蘭州牛肉麵〈池袋〉
- 8 四季海岸〈池袋〉
- 9 福琳〈麻布十番〉
- 10 山西亭〈大久保〉
- 11 延吉香〈大久保〉
- 12 食彩雲南〈池袋〉
- 13 疆萊〈池袋〉
- 14 張小記〈大久保〉
- 15 添好運〈後樂園〉
- 番外編 庫迪咖啡〈池袋〉

『進撃の「ガチ中華」』に登場するお店



カーティス・メイフィールド
Curtis Mayfield
1942-1999

おおいしよしたか 1974年、京都府生まれ。京都嵯峨嵐山にある古書店 London Books店主。文芸書を中心に、人文書、美術書、絵本、サブカルチャーなどを扱う。観光客と地元の人に支えられ営業を続ける。

London Books
616-8366 京都市右京区嵯峨天龍寺今堀町22

森英二郎 思い出のクリフォード ⑮

カーティス・メイフィールドは60年代にはR&Bコーラスグループのジ・インプレッションズのリードヴォーカルとして「ピープル・ゲット・レディ」、ソロになった70年代からは映画「スーパーフライ」のサウンドトラックなどたくさんのヒット曲を出し続けた。しかし90年にコンサート中の照明機材の落下事故で半身不随になってしまう。その後友人たちの助けで96年に『ニュー・ワールド・オーダー』というアルバムを発表しました。僕が南青山のギャラリーで個展をしたときに友人がこのアルバムをくれたので、毎日画廊で流していたら画廊の女性オーナーが、このCD素敵ねえ、と言ってきたので、かっこええでしょ、カーティス・メイフィールドいう人ですねん、と教えてあげた。次の日彼女は、CDを買ったわよ、と言いました。

もり・えいじろう 1948年、京都府生まれ。関西のタウン情報誌「ブレイガイドジャーナル」の表紙、野外コンサート「春一番」ポスター、『荷風と東京「断腸亭日乗」私註』（川本三郎 著）、絵本『おとうさんのうまれたうみへのまちへ』など。

日日読書 大西良貴

28



島田雅彦
『僕は模造人間』
新潮文庫／平成元年

十代から二十代の頃、島田雅彦の小説にはまっていた。『彼岸先生』『忘れられた帝国』など印象深い作品がいくつもあるけど、とりわけインパクトが大きかったのが本作。

主人公垂久間一人の生い立ちから中学、高校、大学生活を描く青春小説。その青二才ぶりは悪趣味の域に達するほど過剰。思春期ならではの自意識過剰をこまで正確に描き出せるものかと驚いた。作者お得意の逆説を駆使し、あらゆる予定調和を嫌いぬく主人公のねじれた自我、果てしない一人相撲をこれでもかと描いている。

普段本など読まぬ弟まで本作にはまり「これは俺のことだ」と言うので「どこがやねん」と半量を入れたら「お前こそこの主人公をわかってない」と返され、喧嘩になったおぼえがある。趣味も性格もボクとは正反対の弟にまでそう思わせてしまう作者の筆の冴え。太宰治などもそうだが、多くの若者に「この主人公がわかるのは自分だけだ」と思わせる力がある。

三島由紀夫の『仮面の告白』が下敷きになってるけど、それを軽やかに、しかし毒気たっぷりにパロディ化してみせた本作は、長らくボクの座右の書だった。

シユ

マンは詩人でシヨパンは芸術家である。と、ジツドは言う。

〈音楽史におけるシヨパンは文学史におけるボードレールとほぼ同位置を占め、同じ役回りを演じているように私には感じられる。〉(略)シヨパンには超絶技巧の演奏家たちによるイメージに加えて、若い娘たちの抱く幻想がある。感傷に浸りすぎるシヨパンという幻想だ。(略)確かに憂愁のシヨパンは存在し、彼は悲嘆に暮れるむせび泣きをピアノから絞り出す。(略)私が愛しみ、称賛するのは、彼がこの悲しみを乗り越えて喜びまでに到達していることである。歓喜がシヨパンを支配していることである(ニーチェは既にそれを強く感じていたが)。その喜びはシューマンのような些か大雑把で野蛮な陽気さとは全く異なる、モーツァルトに通じる至福であるが、それより遙かに人間的で自然に寄り添い、あたかもベートーヴェンの『田園』の小川のほとりの場面でありそうな、えもいわれぬ微笑のように風景と同一化しているのである。〉とシヨパンを褒め称える。

頁デザインの大きな特徴。本文と同じ大ききでイタリックの書名NOTES SUR CHOPINの柱が上にある。基本は両頁にあり、言及される曲の譜面が載る頁は右にその曲名、字間をあけて本文と左右を揃えている。

左 本文 右 楽譜リストと目次

TABLE	
10.	3 ^{me} Prélude en sol majeur. 1 ^{re} mesure 54
	23 ^{me} Prélude en fa majeur. 1 ^{re} mesure. Edition O.U.P. 55
11.	17 ^{me} Prélude en la bémol majeur. Mesures 49 à 52. Edition Oxford University Press 79
12.	23 ^{me} Prélude en fa majeur. Mesures 21 à la fin. Edition Oxford University Press 84
13.	8 ^{me} Nocturne en ré bémol. Mesures 1 et 2. Edition Oxford University Press 94
14.	1 ^{er} Scherzo en si mineur. Mesures 1 à 3 (2 ^{me} partie) 95
15.	13 ^{me} Nocturne en ut mineur. Mesures 48 à 50. Edition Oxford University Press 98
16.	1 ^{er} Ballade en sol mineur. 8 ^{me} mesure. Edition O.U.P. 113
17.	3 ^{me} Scherzo en ut dièse mineur. Mesures 155 à 163. Edition Peters 116
18.	Sonate en si mineur. Mesures 27 et 28 (cité par E. Ganche) . . . 125

NOTES SUR CHOPIN
est écrit déjà; la phrase musicale qui, peu à peu, se forme sous ses doigts, j'aime qu'elle semble sortir de lui, l'étonner lui-même, et subtilement nous invite à entrer dans son ravissement. Même dans tel morceau de *bravos*, comme l'énergique et tempétueuse *Étude en la mineur* (II^e du second cahier), quelle émotion voulez-vous que j'éprouve? si vous n'en éprouvez pas vous-même et ne laissez point sentir que vous en éprouvez, vous, pianiste, à inopinément entrer en la *bémol majeur*, puis aussitôt en *si majeur* — soudain rayon de soleil crevant inopérément la tourmente et l'ondée —, si vous me donnez à entendre par votre assurance que vous savez cela d'avance et que tout était préparé. Chaque modulation dans Chopin, jamais banale et prévue, doit réserver, préserver cette fraîcheur, cette émotion presque craintive d'une nouveauté jaillissante, ce secret d'émerveillement auquel l'âme aventureuse s'expose sur des chemins non tracés

日下潤一 『NOTES sur CHOPIN / ANDRÉ GIDE』のデザイン

22

この柱と下のノンブルは同じ大きさで赤色で刷ってある。本文はこの二つにはさまれている。柱もノンブルも本文とのアキが2行と行間で約9ミリあいている。目立つデザインだが、意外にわずらわしくない。楽譜のリストの前の数字のピリオドが数字によって、ベースラインにそろっているのと、数字の中央あたりのものがある。数字がオールドスタイルで、3、4、5、7、9はベースラインより下に伸びる。オールドスタイルは手書きの名残。ピリオドはベースラインからうごかせないのでこうなる。ノンブルの二桁数字をみればわかる。出典Oxford University Press'フルスベルと省略Oxford O.U.P.の二種が混在している。これで行の調節をしているのだろう。

曲のリストと目次、ノンブルとタイトルを結ぶピリオドの置き方が活字ならではの形で、ベースラインに揃えて間隔があいていてよいと思う。本文書体はガラモンド。

自己証明手段のない人生①

関川夏央 昭和残照

二十三

一九七三年（昭和四十八）十月、第四次中東戦争で原油の価格が急騰し、日本は三〇パーセントのインフレに襲われた。

製紙業への打撃はことに大きく、払底したトイレットペーパーがスーパーで取り合いとなり、週刊誌は減ページされた。

当時、電話恐怖症のくせに週刊誌記者見習いをしていた私は自然に失業した。錦糸町のキャバレーでボーイのアルバイトをしたが、これも疲れるばかりだったので、新聞広告で見た小さな出版社に応募して七四年四月から勤め始めた。会社は銀座にあった。



その年八月三十日のお昼、十二時四十五分だった。大手町・三菱重工本社ビル玄関前で爆弾が爆発した。遠くはなかったが爆発音には気づかなかった。

現場は凄惨だった。煙のたちこめた真昼の都心の道路、その両側のビルの窓ガラスが爆発の衝撃で割れ、地上に降り注いだ。死者八名、負傷者三百七十六名という巨大テロであった。爆発物の威力の過大さとガラスの雨はテロリストの想定外で、組織内部は激しく動揺しようである。だがいまさら引つ込みはつかない。「東アジア反日武装戦線・狼」と署名した犯行声明には、東アジアを「搾取」する大企業だけではなく、大手町にいた人々を含め日本人全体が有罪なのだであったが、それは説得力を持たない理屈であった。

三菱重工重工爆破事件二日後の九月一日である。台風十六号が多摩川上流に豪雨をもたらした。東京市街地の雨はたいしたことなかったが、小河内ダムでは通常の三十五倍という緊急放水をせざるを得ず、多摩川の水位は急上昇、濁流となった。その結果、小田急線と泉多摩川駅近くの堤防が決壊、九月三日午後までに十八戸の新築住宅が流失した。家そのまま船のように流される瞬間はテレビ中継された。

オイルショックまでの高度経済成長下の日本は繁栄したが、家庭用電話やドアノブの「カバー」の流行が象徴するように上げ底だった。七四年の日本人の平均寿命は男性七〇・七歳、女性七六・〇二歳で、「欧米を抜いた」と喧伝されたが、その後の五十年で十歳延びた。言い換えると、五十年前なら私を含む多くの日本人の寿命はすでに尽きている。

七五年、テレビドラマで初めて時代遅れのモラルに生きる特攻隊あがりの中年男を主人公（鶴田浩二）にした『男たちの旅路』で、その「新鮮な古さ」を印象づけた山田太一は、七七年、『岸辺のアルバム』を書いた。

「二十四時間働く」サラリーマン（杉浦直樹）がようやく世田谷のはずれ、多摩川堤防の真下に買った家で暮らす家族の日々をえがき、四十代なのに清楚で美しいその家の主婦（八千草薫）が見知らぬ男と浮気をするという衝撃的なエピソードを含んだそのドラマのラストシーンには、多摩川の住宅流失であった。それは「一家団欒の茶の間に笑いと平和」をもたらすがテレビの使命と心得た時代そのものへの批評といえた。

そうして八〇年代に移っていく。それは、早死にした世相批評家・ナンシー関が喝破したように、「イブ・サンローランの便所のスリッパ」や「松坂牛しゃぶしゃぶ食べ放題、ただし制限時間九〇分」が象徴するような「派手で貧乏くさい」時代であった。

続

ぼくの映画館は家から五分

29

伊野孝行

感 想を言おうとしたら自然に涙が溢れてきた……これは三宅唱監督の最新作『夜明けのすべて』を見終わった時のぼくの状態である。

見ている間、心の芯が揺すぶられ続けたのだろう。映画を作る神経がとて繊密だと思った。三宅唱がどんな映画を撮ってきたかを一挙に見られる特集を下高井シネマでやっていた。初長編作『やくたたず』、これが26歳の作品かと驚いた。構成力に並ならぬものがあり、映像はぼくの眼を動きを迫る動物にしてくれる。

さて『ワイルドツアー』は6年前の作品になる。山口市のアートセンターでのワークショップ（植物のDNAを解析し植物図鑑を作る試み）の様子から始まるので、てっきりドキュメンタリーだと思った。出演は映画に興味のある地元の中高校生たち。演技は当然ヘタツピ。素のまま戯れる声や姿も混じっている。このコントラストが実に楽しい。演技ってなんだろう。名優の自然な演技も本物の自然とは違う。『ワイルドツアー』は野山を巡るだけでなく、映画における人間の自然さも探検しているようだ。感動させる技術力で言うなら、彼らの演技はウマイと言える。

年上の大学生梅ちゃんに片思いする中三男子2人の恋は甘酸っぱさを、冬枯れの景色がキュッとしめてくれる風景が抜群にいいのはきつとコイツらのせいだろう。



いの・たかゆき 1971年、三重県生まれ。イラストレーター。第44回講談社出版文化賞、第53回高橋五山賞。著書に『画家の肖像』『となりの一休さん』などがある。テレビアニメに『オトナの一休さん』。最新刊は南伸坊さんとの対談本『いい絵だな』。

せきかわ・なつお 1949年、新潟県生まれ。作家。代表作に『海峽を越えたホームラン』（双葉社/第7回講談社ノンフィクション賞）『坊っちゃん』の時代』（双葉社/谷ロジローと共作・第2回手塚治虫文化賞）、近著に『人間晚年図鑑』シリーズ（岩波書店）。

イラストレーション……南伸坊

はれのち句もり 二十一日 高山れおな

現在 まで系譜が続く日本派ならともかばかりを取り上げながら、連載がここまで回を重ねられたことは意外だ。とはいえずがに、このあたりが限界。以後は作者の有名無名にかかわらず、『俳諧新潮』から秀吟を紹介し、きりのいい二十四回に達したところで、続・はれのち句もりに移行しようと思う。

まずは新年及び春の句より。愚仏は安政五年（一八五）生まれの昭和十九年（一九四四）没。秋声会主宰の角田竹冷と同様に法曹界の人で、検事畑を歩んだ。写真を見ると立派なカイゼル髭を蓄えており、俳句の方も鼻息が荒い。掲句も、風が強風にびりびりとうなりを上げて、小さな家なら引きずって行きそうな勢いだというのだから誇張も甚だしい。いや、大人が大勢で揚げる大風



カイゼル髭之図 J.K. Ouzy

なら、必ずしも誇張ではないのかも知れない。そう取ってもよいけれど、やはりこれは子供が遊びで揚げる風で、むしろ数が多いところが眼目なのではないか。いざれにせよ声調が強く張り、勇壮な魅力に富む。

愚仏の『俳諧新潮』への入集は四十七句で、紅葉・麦人・霞山・活東・小波に次ぐ第六位。明治四十三年（一九一〇）に出た『明治百人十句』という新派のアンソロジーにも顔を見せており、存在感がうかがえる。同書にある〈春の月秣ふ軍馬照しけり〉や〈鶏や嘴に怪しむ初氷〉も、かつちりと印象鮮明な仕上がりだ。なお、「秣ふ」はマグサカウではなくクサカウ、「嘴」はクチバシではなくハシと読みたい。

守武に善う似た禰宜や神の春 飯人
遣羽子の白粉散るや肩先に 百合女
陽炎の足にからまる疲かな 黙籟
暮遅し昨日に似たる鐘が鳴る あらた

右の四人はいずれも苗字・伝未詳。一句目は、俳諧の鼻祖とされる荒木田守武の〈元日や神代のことと思はるる〉を踏まえる。守武が伊勢神宮の神官だったところからの「善う似た禰宜や」ではあるが、君、守武を見知っ

てるのかねと突っ込みが入りそうだ。もちろん、そんなアバウトこそが、正月気分を大らかに掻き立てるのだが。

若い女たちの羽突きの様子を描く二句目は、着眼の濃やかさが光る。案外、ありそうで無い句ではあるまいか。

三句目は、身体感覚の掘り下げに惹かれる。あたりの明るさにかえって距離感が失われ、道のりが果てしなく感じられてくる、そんな機微を思う。つい先日、田舎の小駅でタクシーを呼べず、結構な距離を徒歩で往復する羽目に陥ったこともあり、個人的にも身につまされる。

四句目の「昨日に似たる」は、子規であれば月並調として退けかねない。しかし、月並調の嫌味を言うよりは、そこにある一種のリアリティを評価したい。春の倦怠のうちに、日付の感覚を疑わせる程のデジャヴユが巧みに表現されているではないか。蕪村をよく咀嚼した一句に違いない。

西岡琢也

つかこうへい春秋〈下〉

長谷川

康夫『つかこうへい正伝 II』（大和書房）の刊行記念イベントが劇団つかこうへい事務所（聖地）紀伊國屋ホールで、劇団の役者たちを集めて行われた。題して「一夜限りの大同窓会」。一部は『つかも心に太陽を』の紀伊國屋ホール公演のダイジェスト映像の上映、二部は役者たちの座談会。風間杜夫、平田満、井上加奈子、根岸季衣（とし江）、石丸謙二郎、酒井敏也、岡本麗。司会進行は長谷川が務めた。

「劇作家が書けるのは四割くらい。あとの六割は役者に書かせてもらうんです」

つかはインタビュでそう答えている。その役者たちのつかとの出会い、つか芝居のエピソードが次々披露された。中でも酒井の劇団加入話が抱腹絶倒だった。

『いつも心に〜』上演時、風間や石丸目当ての、ファンの出待ち・入り待ちがあったと言う。八〇年春の新人オーディションの時に、全国から三千人の応募があったと言うから、その人気は凄まじかった。

オーディション受付解禁日、一番に届いた

N'S COLUMN

32

応募郵便は酒井のものだった。試しに酒井の自己紹介カセットテープを聞いてみたらつかが大爆笑、「こいつを呼べ！」と鶴の一声で酒井は田舎の岐阜から呼び出され、即劇団員になった。この時の合格者は二名。酒井と、後につかと結婚する生駒直子。生駒の合格秘話も面白い。

生駒は酒井と反対に受付最終日につか事務所に履歴書を持参、ドア外で渡した。受け取った女性スタッフが「すぐくかわい子でした！」と言うと、つかが「呼んで来い」となり、戻って来た生駒は、セーラー服の女子高生だった。その後酒井同様、つかの芝居に抜擢された。結局オーディションの最初と最後の二人だけ、合格になった。『II』の巻末の対談で長谷川から両親の出会いを聞かされ、初めて知ったつかの一人娘、愛原実花は驚いている。

『いつも心に〜』『蒲田行進曲』の風間・平田コンビはつか事務所二枚看板だが、僕は『熱海』の主人公、〈くわえ煙草伝兵衛〉と木村伝兵衛役は公演の三浦洋一しか知らないし、以降つか芝居と縁がなかったので、座

談会の中心に風間がいるのはピンと来なかった。

深作欣二『蒲田行進曲』（82）を最近観直した。井筒（和幸）さんと違い、つかと深作の関係は良好だったようで、深作は何度も手紙でつかに問い合わせ、つかも丁寧に答えていたと言う。映像作品とつかの相性の悪さを長谷川は、文中で何度も言及している。深作の『蒲田〜』は数少ない成功例なのだろう。

封切り時に観た時もさほど惹かれなかったが、再見しても同じだった。やはり風間・平田の映画の主役は、荷が重い。

座談会の合間に、稽古風景や欠席の加藤健一（『熱海』の初代大山金太郎）にメッセージが映された。中でもつか事務所の出発点になったVAN99ホール（入場料99円！）の『ストリッパー物語』の初演の、貴重な映像（画質は怖ろしく悪）が流れたのは嬉しかった。

最後の映像は『ソウル版・熱海殺人事件』の稽古で、つかが舞台上で韓国人の役者相手によく透る声で演出する姿は、水を得た魚のように生き生き輝いていた。カリスマ性のあるその存在は、多くの人を惹きつけたのが実感出来た。

「殴られるヤツの痛さでなく、俺は殴るヤツの痛みを描きたいんだ」

長谷川が最後に、つかの印象的なその言葉で締めくくった。

つかこうへい、死して十四年。

にしおか・たくや 1956年、京都府生まれ。脚本家。代表作に『ガキ帝国』『TATTOO（刺青）あり』『沈まぬ太陽』『はやぶさ〜遙かなる帰還』、TVドラマ『京都迷宮案内』シリーズ、「返還交渉人」など。

たかやま・れおな 1968年、茨城県生まれ。俳人。「壹」「翻車魚」同人、朝日俳壇選者。文中の田舎の小駅とはJR大和路線の法隆寺駅。目的地は廣瀬大社。北の法隆寺方面には盛んとバスが出てましたが、南方は自分の脚だけが頼り。

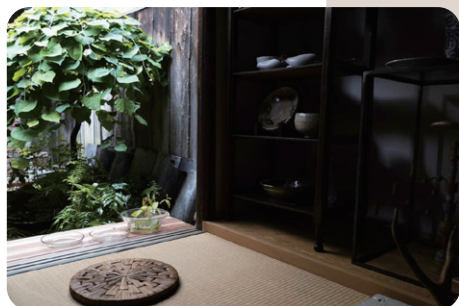
イラストレーション……日下潤一

魚住寧子

タイトルレタリング……ヨコカク(岡澤慶秀)

うおずみ・やすこ

1977年、兵庫県姫路市生まれ。Umwelt Textiles & Objects店主。学生時代にテキスタイルを学ぶため、デンマークへ留学。帰国後、古美術店に勤めたのち2012年、京都・夷川通にUmweltを開く。



Tsuboniwa 坪庭は、窓がなく奥に長いつくりをした暗い京町家に光と風をもたらしませう。

ウンベルトを始めるとき、坪庭に植えた花蘇芳^{はなすわう}の木は四季折々に変化し、花の散った初夏からは緑が美しい季節になります。地表は十年以上の時間をかけて、苔やツタ、シダなどで覆われるようになりました。そこへ私は旅先で見つけた小石や散歩の途中に拾った陶磁器の破片をぽつぽつと置き続けています。雨が降ると、たくさんの雨粒が花蘇芳の葉を伝ってころころと落ちてゆく様子を楽しめます。それはまるで五線譜に書いた音符が譜面から飛び出して、それぞれの音を奏でているかのよう。

坪庭と店の小上がりをゆるやかにつなぐ縁側(濡れ縁)を作ったのは、ちょうど今から一年前のことです。同時に、朽ちかけていた水屋も改装しました。テーマは「雨音」。雨の日がつづくどうしても気持ちは沈みがちになりますが、敢えて雨の音に耳をかたむけてもらえる場所を店内に作ろうと思い立ったのがきっかけです。でもいま改めて考えると、音楽家の故坂本龍一さんが、雨の日は自宅の窓を開けて耳を澄ましているという習慣にも影響されたのだと思います。亡くなられてから知ったことでは、闘病中の病室で坂本さんは雨音の動画を探して流されていた時期もあったそうです。

ところで先日、縁側に腰掛けて過ごされたお客さまが「陶片に住まいが与えられていますね」とおっしゃった言葉にすこし驚き、じわじわとうれしくなりました。のんびりとした雨の日、ウンベルトではお茶をお出ししております。梅雨どきも雨音を楽しみにご来店いただければ幸いです。

ウンベルト Umwelt Textiles & Objects
604-0962 京都市中京区夷川通御幸町西入達磨町588-1

前号、伊野孝行さんの連載で紹介されていた『神の道化師、フランチェスコ』を目黒シネマで(おそらく都内では最後の上映)。彼らの無邪気な笑顔があまりにもまぶしくて、思わず目を背けたくなる。明るいラストシーン。モノクロ映像なのに、木々の若葉の色、さわやかな空の色が見えてきそう。Eテレ「こころの時代」〈ヴィクトール・フランクル それでも人生には意味がある〉毎月の放送をたのしみに行っている。自分の内側に目を向けすぎず「過剰自己観察」をやめ、まなざしを外へ、他者へ向けよと説いている。(赤波江)



E.Mori

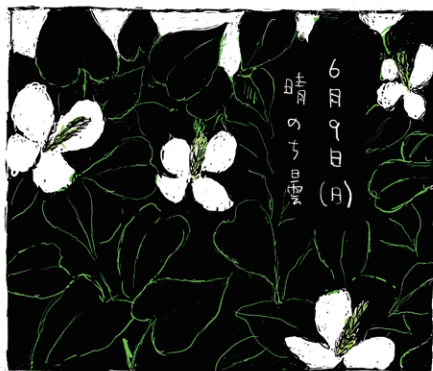
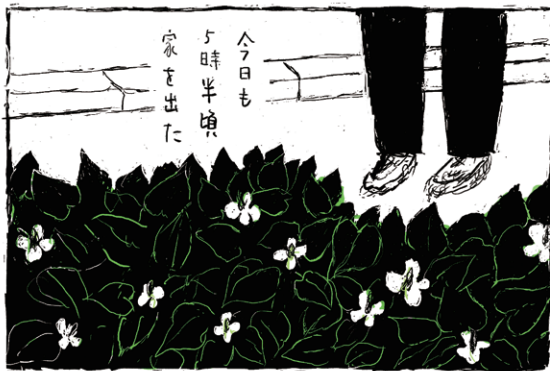
目黒・不動前のフラヌール書店に30号を届ける。平台に石垣りんの『詩の中の風景』とエッセイ集『朝のあかり』。『詩の中』は毎日新聞で荒川洋治さんが絶賛。エッセイ集は雑誌や新聞に発表されたもの。石垣は高等小学校の後、昭和9年、15歳で父親の進学奨励を断り、職業紹介所により銀行の事務員になり、55歳で定年退職。その5年前に1DKのマンションを購入。以降は詩を書いていない。2004年80歳で没。生前の詩集は4冊。詩はすばらしい。エッセイには発見が多く、言葉のひとつひとつに読む喜びがある。(日下)

今月のあとがき

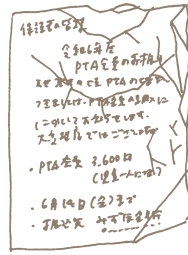
オリジナル

31

Originally
June 2024



大事なプリントは
ぐしゃぐしゃになっ
ランドセルから
出てこ



小 学校に入学して三日目の朝。自宅の前の道路まで出て、息子を見送ったもの

の、5分後に泣きながら帰宅。

ぐちゃぐちゃの顔をして、「途中でわくわくしてしまっただ」と泣く。言葉をつくして励ます。チョコレートを一口かじらせたら、少し元気が出てきて「行く」と言う。

10分ほど遅刻して、一緒に校門まで行くと、校長先生が立っている。先生は何も聞かず「あら、おはよう」と息子の手をとり、「教室行こうか」と玄関に向かっていった。

ずっと見ていたかっただけ、まわれみぎして家に戻る。さつきまで胸に張りついていた動揺が、春風にふき流されて、ポカンとする。ポカンの気持ちのまま帰宅して、わたしもチョコレートをかじった。

小学生になって2ヶ月がすぎた。

時々「学校行きたくないな」と言うようになった。たいてい月曜日か金曜日。「なんで5日間も学校にいかなきやいけないんだ」と言う。「休みは3日ほしい」らしい。

6月は祝日がないから大変だ。ぐずぐずしながらも、ランドセルを背負って家を出ていく。帰ってくると「あ〜疲れた」とソファでだらけている。

「なんで学校は毎日いかなきゃいけないの」と訊かれて迷う。正しい答えがわからない。

ある日、「コロコロコミック」を読んでいたと言われて、隣の木屋に買いにいった。770円。(高い〜！)

息子が読みたかったのは「ベイブレードX」と「スパーマリオくん」と「スプラトゥーン」。どれも玩具がゲームが元になっている話。ふーん、こういうのがおもしろいんだ。うしろの方に、「ドラえもん」が載っていたので、ほっとする。

「もう絵本の読み聞かせはいらぬよ」と言われて、驚く。夜、一緒に布団でゴロゴロしながら息子はコロコロを読み、私は私で本を読む。「僕もう寝る」と言われたら、部屋の電気を消して、枕元の小さな照明だけにする。「寝る瞬間は、お母さんの声を聞いていたいから、なんでもいいから声に出して読んでくれない？」とモゾモゾ言う。

本当になんでもいらいらしいので、いま私が読んでいる『三体II 黑暗森林』(劉慈欣/ハヤカワ文庫)を音読する。中華SF。

「：智子の人類に対する主な脅威は、高エネルギー物理実験においてエラーと混乱を...」やがて聞こえる、寢息のリズム。しつかり眠ったのを確認してから、わたしはもの黙読に戻る。

あかばえはるな 1985年、長崎県生まれ。愛知県立芸術大学卒業。2010年ビッグラフィックス入社。2017年9月出版。チョコレートは、わたしのひみつ道具。